

加齢とともに変化するスモン症状に対する鍼灸施術

新野 正明 (国立病院機構北海道医療センター)

濱田 晋輔 (北海道神経内科病院)

中城 雄一 (北海道神経内科病院)

石坂 美波 (北海道神経内科病院)

藤本 定義 (中央鍼マッサージ治療室)

藤本 純子 (中央鍼マッサージ治療室)

稲垣 恵子 (北海道スモンの会)

研究要旨

長く同じ主訴を中心にスモン患者の施術をおこなってきたが、ここ数年主訴に変化が見られるようになった。スモンの苦痛を和らげるためには原因を把握し施術内容も症状に合わせ対応していく必要がある。症例1は右肩腱板断裂を機に全ての移動が車椅子となった。それにより下肢の筋を動かす機会が激減し萎縮と拘縮が進み痛みと筋スパズムが出現したと考える。症例2は思い当たる原因が無いにもかかわらず、全身に刺すような痛みや術者の手が触れるだけで強い冷感があり部位も様々で特定出来なかった。今までの行動や口調の変化を見ると、特にコロナ禍による精神的ストレスが要因の一つであると考え、不安感を和らげる対応をおこなった。結果として二つの症例とも以前と同程度の効果を得ることができた。

A. 研究目的

当治療室では長年にわたりスモン患者の施術をおこなってきたが、ここ数年患者の訴える主訴に変化が見られるようになった。今までの主訴の症状が無くなったわけではなく、より気になる部位や症状が出現したものであり、施術内容も症状に合わせ対応している。原因は加齢によるものか、または心因的要素があるのかをスモンの苦痛を和らげ日常生活を少しでも快適に過ごす為には検討していく必要がある。今回この一年間で特に症状に変化があった2名の症状に合わせた施術の対応を検証報告する。

B. 研究方法

症例1 86歳女性 昭和40年スモン発症

平成26年までは一部松葉杖を使っていた移動や伝い歩きが出来たが、平成27年に右肩の腱を断裂し手術

後からは全ての移動が車椅子となった。以前までの主訴は肩の痛み、左の背中から腰にかけての痛みであった。令和4年9月頃より下肢の筋肉に非常に強い痙縮が起こり、それに伴う痛みが出現し眠りにつくことが出来ず日中車椅子の上で痛みを耐えながら居眠りする日々が続いた。10月に入り当治療室では以前までの施術から下肢中心の施術に切り替えた。痙縮の症状に対し足底、足関節、下腿、大腿、股関節のストレッチを入念におこなった後硬結部位に鍼を施術した。下肢中心の施術を開始して4回目に鍼を低周波による鍼通電に変えたところ今までより効果が得られた。その後は毎回鍼の位置や患者の体勢などを少しずつ変えながら施術をおこなっている。

症例2 60代女性 16歳に発症

以前は側頭部、頸部から肩甲間部や脊柱起立筋の過緊張による痛みがあり、痙性麻痺に伴い下肢の疼痛も

強く、特に腓脛部から大腿前面また下腿外側の痛みも強かった。今年の春頃から今までにはなかった身体を刺すような全身の痛みが出現している。施術時に術者の手が患者に触れると強い冷感を感じ、少し触れただけでも異常な圧迫感があるなど状態の変化が著しく見られた。全身の冷感も非常に強いため、赤外線を2基、足にドーム型の温熱機、腰の高さにホットバックまた手ぬぐいを温めて施術をおこなった。マッサージはマスクの紐が当たる耳周囲と側頭部、頸部から肩甲骨下角までの脊柱際、腰臀部、大腿前面、下腿外側を中心に全身におこなった。鍼は頸肩背腰部の硬結部位と耳周囲を中心とした側頭部に単刺で刺鍼した。

C. 研究結果

症例 1

下肢の施術を数回おこなってみるとその日の夜苦痛が緩和された状態で眠りにつくことができ朝に痛みはあるが以前より楽に感じた。しかし翌日より徐々に痛みが戻ってきた。そこで鍼の施術方法を鍼通電にしたところ大変効果があるように感じた。また伏臥位より仰臥位で施術を受けた方が効果を感じられた。患者はリハビリ訓練の為病院に通院しており、そのことを理学療法士に伝えると下肢中心に低周波、温熱療法、マット訓練をして頂き症状がかなり軽減した。現在もリハビリと鍼灸マッサージ施術を連携しながら継続している。

症例 2

半年ほど前より今まで感じた治療後の効果があまり感じられなくなった。苦痛によるストレスの為施術者に対し質問や訴えも多くなった。その為これまでは1名でおこなっていた施術をマッサージと鍼とで分け別々の視点から患者に説明出来るよう2名の施術者で行う事にした。また毎回の施術の目的、内容、身体の変化等を文章にして次回来院時に渡すことで患者と術者のコミュニケーションを図った。その他鍼施術時に術者の手が極力患者の肌に当たらない様にするなどの工夫をした。これらの対応をおこなった事により施術頻度は以前と変わっていないにもかかわらず、筋の過緊張や硬結部位は改善がみられ、痛みや今まで見られなかつ

た異常知覚も緩和されるなど、以前の様な施術後の効果を徐々にとり戻しつつある。しかしながら施術後2日以内には元の症状が出現する状態が現在も続いている。

E. 結論

スモン患者は長年スモンの苦痛を抱えており、それは身体だけではなく心にも大きな苦しみをもたらしている。治療院のメリットとして患者と接している時間が他の医療機関と比べ長いことが挙げられる。施術についてはもちろん、時にはプライベートな会話も患者と話しコミュニケーションを図ることで心身ともに少しでも苦痛を和らげていけるよう心掛けている。スモン患者の高齢化が進んでおり今までと違う様々な症状が現れている中で、患者に携わっている機関がそれぞれ単独でおこなうのではなく、連携して患者を診ていける形を作ることが出来れば施術効果も上がり、スモン患者がより安心して過ごしていける環境になると考える。